

平成 27 年度次世代グローバルリーダー事業
「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」の評価（案）

【事業の概要】

事業名：次世代グローバルリーダー事業「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」

実施期間：

陸上研修 平成 28 年 1 月 20 日～1 月 26 日（7 日間）

船上研修 平成 28 年 1 月 27 日～2 月 29 日（34 日間）

途中、チェンナイ（インド）、コロンボ（スリランカ）の 2 か所に寄港

参加青年：

日本青年 121 名 外国青年 112 名 合計 233 名（ナショナルリーダー等を含む）

外国青年の参加国 オーストラリア、バーレーン、チリ、インド、メキシコ、ニュージーランド、
ロシア、スリランカ、タンザニア、アラブ首長国連邦

【事業の評価】

①日本人参加青年の成長

事業参加による日本人青年の成長を、異文化感受性発達調査、参加青年自身の評価及び研修アドバイザーからの定性的評価からみると、日本国内のみの運航と比較して、外国寄港を含む長期の傭船研修の効果が発現している分野があることがわかる。

・異文化感受性発達調査（IDI）の実施結果

有識者の協力を得て、異文化感受性発達モデルに基づく「異文化感受性発達調査」（Intercultural Development Inventory）を日本人参加青年に対して実施した（有効回答：参加青年 121 人中 107 人）。その平均値は下表のとおり。

今回の調査においては、日本人参加青年の異文化感受性（回答者が異文化に対してどのような態度を取っているか）が事業への参加を通じて向上していることが明らかになった。このような変化は、外国への寄港がなかった前年度のグローバルユースリーダー育成事業には見られなかったものであり、外国への寄港を含む 1 ヶ月程度の船を用いた研修が、参加青年の成長を促したのではないかと考えられる。（なお、米国に留学している学部生の異文化感受性発達度について、1.5 年分の経験により同様の変化が見られたとする先行研究がある）。

	事業前	事業後	変化
異文化感受性（145 ポイント中）			
認知度 (平成 26 年度事業)	121. 32 (120. 60)	122. 52 (120. 60)	+1. 20 (±0)
発達度 (平成 26 年度事業)	89. 62 (87. 84)	92. 25 (87. 35)	+2. 63 (△0. 49)

・グローバルリーダーに必要とされる諸能力の向上度合いに関する参加青年自身の評価

日本参加青年に対し、船上研修前時及び研修終了後の2回に分けて、事業を通じて育成されることが期待される能力について、自身が6段階評価（「十分備えている」～「全く備えていない」）でどの位置にあるかを質問したところ、全項目において、青年の自己評価の平均値が上昇した。各項目の中では、「リーダーシップ」、「異文化に対応する能力」、「主体性・積極性」などについて、1.0ポイント以上の伸びが見られ、「リーダーシップ」等については、平成26年度のグローバルユースリーダー育成事業と比較しても伸びが大きい。一方、平成26年度のグローバルユースリーダー育成事業と比較すると、「コミュニケーション能力」、「積極的な発言」、「自信」などについて、参加青年の自己評価の伸びは限られた。この点については、後述の「研修アドバイザーからの評価」にもあるが、平成26年度の事業と比較して事業期間が長く、外国青年との協働の時間がより長かったため、日本青年が、外国青年との比較において、自らの能力をより厳しく顧みることとなったのではないかと考えられる。

	出航前研修時	船上研修後	伸び (前年度事業における伸び)※
コミュニケーション能力	3.85	4.79	0.93 (1.05)
リーダーシップ	3.42	4.56	1.14 (1.04)
問題解決能力	3.81	4.59	0.78 (0.89)
異文化に対応する能力	4.23	5.36	1.13 (1.10)
主体性・積極性	3.91	4.92	1.02 (0.93)
自信	3.67	4.78	1.10 (1.28)
企画力	3.56	4.47	0.91 (0.85)
積極的な発言	3.26	4.22	0.96 (1.26)
チャレンジ精神	4.57	5.31	0.74 (0.66)
計画性	3.56	4.31	0.75 (1.03)

※前年度事業の陸上研修前と海外研修後を比較

・研修アドバイザーからの定性的評価

実際に参加青年と寝食を共にしながら事業の運営に携わり、青年たちの成長を観察することができる立場にあった研修アドバイザーからの定性的な評価を得た。その中でも特徴的なコメントを抜粋したものは以下のとおり。

(アドバイザーからの評価①)

前回の事業に比べて参加青年の成長度はかなり高かったように感じる。特に、前回は船上研修の期間が約二週間と短かったため、参加青年が当初の表面的な会話から、より深い本質

的な対話へと移行する前に事業が終了してしまった感があるが、今回は船上研修が 10 日間を過ぎた頃からその移行が起こり始め、そこで異文化コミュニケーションやリーダーシップで学んだことを実践する機会が増えたことで、さらに成長曲線が上昇カーブを描くことができたように感じる。

（中略）今回の事業で一番痛切に感じたのは、日本参加青年と外国参加青年の間に横たわる英語力¹や問題意識の溝がいかに大きいかということである。このことはこれまで事業期間が短かった時にはそれほど表面化していなかった

（注：上記評価を行った研修アドバイザーは平成 26 年度事業にも講師として参加）。

（アドバイザーからの評価②）

航海に出て一週間もすると英語の能力の優位性か、特に、英語を母国語とする参加者の積極性が目に付きました。自分の専門を活かしながら既に社会で仕事をしている自信に基づき、もっと研修や船上の活動に関わりたい、という気持ちが見えてきたように思います。（中略）3 週間目の中ごろから、どちらかというとおとなしい印象の日本人青年も、壇上で自分たちの得意な分野で発表したり、活動の提案をしたりする人が沢山出てきました。また、最初から目立った参加者以外の外国人参加者からも、独自の活動提案が増えてきました。これは、リーダーシップや異文化理解セミナーや、他の参加者から触発された結果のリーダーシップの発現であり、SWY の大きな成果であると評価できます。

②相互理解の促進

日本及び外国からの参加青年に対し、「自分と他国の人々との相互理解」について、本プログラムが向上に役立つと思うかどうか（5 段階評価）を事業後に質問した。相互理解の促進については、過去の事業においても青年からの評価は高い水準にあったが、引き続き、90%を上回る青年から、本事業は相互理解の促進に役立つとの回答を得た。

－ このプログラムは、あなたと他国の人々との相互理解に役立つと思うか

	27 年度	26 年度	25 年度	24 年度
5（非常にそう思う）	62%	69%	63%	44%
4（そう思う）	34%	27%	33%	43%
5 と 4 の合計	96%	96%	96%	87%

③参加外国青年及び寄港国の評価

外国参加青年による評価においては、外国青年の日本の印象の改善に貢献しているとの評価が得

¹ 参加青年に対するアンケートにおいて、自身の英語力がディスカッションを行うにあたって十分であったかを尋ねたところ、日本人青年の 48%が「やや不十分」又は「不十分」と答えている（外国人青年で「やや不十分」又は「不十分」と答えた割合は 0%）。

られた。また、寄港地においては、当地メディアにより報道されたほか、政府要人等の来訪があり、寄港地における本事業に対する関心の高さがうかがわれる。

・日本への印象の変化に関する外国参加青年の評価

外国参加青年に対し、日本に対する印象が本プログラムへの参加でどのように変わったか（5段階評価）について質問した。

外国青年の日本に対する印象の変化についてみると、良い方向に変化したとの回答が、平成 26 年度事業に引き続き、高い水準で得られている。なお、平成 24 年度～26 年度事業は、東日本大震災被災地の視察などを行っており、このことが、外国参加青年に日本に対する強い印象を残したのではないかと推察される。

－ 日本に対する印象は、プログラムへの参加でどのように変わったか（外国青年のみ）

	27 年度	26 年度	25 年度	24 年度
5（とても良くなった）	41%	67%	59%	35%
4（良くなった）	50%	26%	23%	39%
5と4の合計	91%	93%	82%	74%

・訪問国政府の対応振り

相手国政府の首脳級、閣僚級の要人への表敬は、相手国政府が本事業を重要視していることを示す一つの指標であると同時に、政府要人に対して直接、我が国を印象付け、関心を高めることができる貴重な機会である。

今回の事業においても、インドにおいては、学校教育大臣等の現地タミル・ナドゥ州政府関係者が船を訪問し、スリランカにおいては、大統領、政策経済大臣、政府国家青年サービス会議議長等が船を訪問した。

・訪問国での事業の報道振り

現地メディアでの事業紹介は、当該国の国民一般の我が国への関心を高めることができる重要なツールであり、本事業においてもテレビ・新聞等のマス媒体で取り上げられることで一定の関心喚起を行えたにとらえることができる。

平成 27 年度事業において寄港したインド及びスリランカでは、現地の新聞、テレビ等で取り上げられた。

- － インド：現地新聞 6 紙に記事掲載、テレビ局 2 局でニュースとして報道
- － スリランカ：現地新聞 4 紙に記事掲載

④社会貢献活動等に対する意欲の向上

社会貢献活動への参加意欲や、海外での活動に対する意欲、事業の成果を地域や国に還元していく意欲に関する参加青年自身の評価からは、事業への参加が、社会貢献活動への意欲や、海外での

活動に対する意欲等を向上させていることがわかる。平成 24 年度～平成 26 年度の事業は、東日本大震災の被災地への訪問がプログラム中に組み込まれており、参加青年にとっても、社会貢献活動に取り組む意欲を向上させるきっかけの一つとなったが、海外航路となった平成 27 年度事業においても、同様の効果が見られたことがわかる。

・事業の成果を地域や国に還元していく意欲に関する参加青年自身の評価

日本及び外国からの参加青年に対し、本プログラムを通して社会貢献活動に参加したいという意欲を持ったかどうか（5 段階評価）を事業後に質問した。「5 非常にそう思う」「4 そう思う」の合計が 90%を超え、ほとんどの参加青年が強い社会貢献意欲を示した。

また、具体的にどのように事業の成果を活用していくか、どのような事後活動を計画しているかについて記述式により質問したところ、参加青年の主な記述は以下のとおり。

－ 事業参加を通じて、社会貢献活動に参加したいという意欲をもったか。

	27 年度	26 年度	25 年度	24 年度
5（非常にそう思う）	52%	56%	42%	45%
4（そう思う）	39%	36%	48%	43%
5 と 4 の合計	91%	92%	91%	88%
平均	4.4	4.5	4.3	4.3

－ 本事業への参加を通して得た体験やネットワークを将来いかに活用しようと思うか。また、どのような事後活動をしようと考えているか。（抜粋）

（オーストラリア参加青年）SWY 教育ネットワークを作って、教員同士をつなげ、教材などを共有する。

（スリランカ参加青年）私の人生の一つのターニングポイントとなった。事業を通して、新しいアイデアをたくさん取り入れることができたので、これから国へ帰って、自分のかかわっている青年コミュニティを対象に創造性のある事業を展開したい。

（アラブ首長国連邦参加青年）事後活動組織 SWYAA の活動に参加し、自分の国でのボランティア活動を増やすことで、社会に貢献したい。

（チリ参加青年）SWY のメンバーと様々な活動を通して交流を保つと共に、自分の住んでいる町やコミュニティでの社会問題にも取り組む。

（日本参加青年）日本の視覚障がい者や聴覚障がい者の学校を訪問し、スリランカで訪問した学校のことを伝えることで、役に立てると思う。

・海外での活動や、事業の成果を地域や国に還元していく意欲に関する参加青年自身の評価

また、陸上研修前と船上研修後に分けて、「海外への留学」「海外での勤務」「国際的な仕事や仕事以外の活動（ボランティア等）」「地域に貢献する仕事や仕事以外の活動（ボランティア等）」「仕事や仕事以外でのリーダーシップの発揮」「英語等の語学力の向上」「日本についての理解」の 7 項目について、それぞれ今後の意欲を 6 段階評価で質問した。

元々の数値が平均で5（6段階評価の上から2番目）程度と比較的高かったため、全体に伸びは大きくないが、特に日本青年に着目すると、「海外での勤務」、「国際的な仕事やボランティア」、「地域に貢献する仕事やボランティア」といった項目について、比較的大きな伸びがみられ、平成26年度事業における伸びと比較すると、「海外への留学」や「海外での勤務」、「国際的な仕事やボランティア」など、海外での活動に対する意欲の伸びが大きいことがわかる。

		出航前 研修時	船上 研修後	伸び (前年度事業における伸び)
海外への 留学	全参加青年	5.27	5.41	0.15 (0.08)
	日本青年	5.23	5.50	0.26 (0.18)
	外国青年	5.30	5.32	0.02 (△0.03)
海外での 勤務	全参加青年	5.01	5.31	0.30 (0.22)
	日本青年	4.97	5.34	0.38 (0.20)
	外国青年	5.06	5.27	0.21 (0.23)
国際的な仕事や ボランティア	全参加青年	5.26	5.59	0.33 (0.23)
	日本青年	5.08	5.50	0.42 (0.28)
	外国青年	5.47	5.70	0.24 (0.18)
社会に貢献する 仕事や ボランティア	全参加青年	5.50	5.77	0.27 (0.24)
	日本青年	5.28	5.68	0.39 (0.43)
	外国青年	5.73	5.88	0.09 (0.03)
リーダーシップの 発揮	全参加青年	5.47	5.70	0.23 (0.22)
	日本青年	5.26	5.57	0.32 (0.34)
	外国青年	5.70	5.84	0.13 (0.09)
語学力の 向上	全参加青年	5.60	5.77	0.17 (0.12)
	日本青年	5.52	5.74	0.22 (0.19)
	外国青年	5.70	5.80	0.10 (0.04)
日本についての 理解	全参加青年	5.56	5.72	0.16 (0.03)
	日本青年	5.42	5.61	0.19 (0.11)
	外国青年	5.72	5.85	0.12 (△0.05)

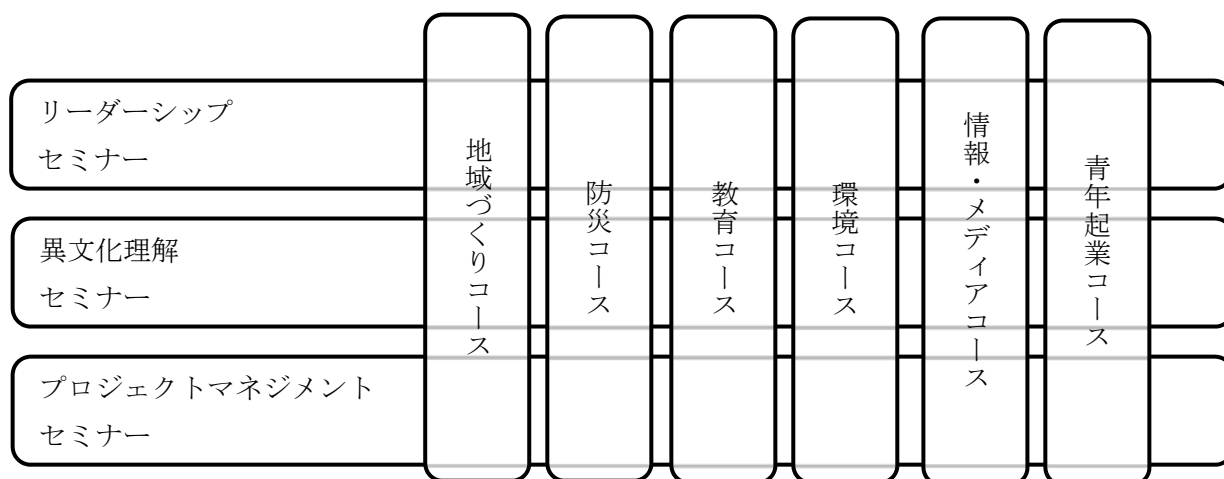
⑤プログラムに対する評価

プログラムに対する評価については、コースやセミナーごとに評価が分かれた。全てのコースやセミナーが参加青年（日本・外国）から高い評価を必ずしも得ていないことから、今後、参加青年の関心に基づいたコースやセミナーの内容の設定、青年達が意欲を持って参加できるような実施体制等に改善を図っていく必要がある。

セミナーとコースの関係

※セミナーにおいては、グローバルリーダーとして必要となる能力の育成を目指し、専門知識を持つ講師による講義等を実施。研修を通じて各セミナーを3～4回実施。

※各コース（青年達が自身の関心に基づきコースを選択）においては、ファシリテータの下、ディスカッションや施設視察等（日本及び寄港地2か国）を実施。



・主なプログラムに対する評価

日本及び外国からの参加青年は、自身の興味に沿って6つのコースから1つを選択し、当該コースにおいて設定されたテーマに沿ってディスカッションや施設の視察等を行うが、それぞれのコースに対する参加青年の評価（5段階評価）は以下の通りであり、コースによって、内容に対する青年の評価に違いが見られる。

	地域 づくり	防災	教育	環境	情報・ メディア	青年起業
5（素晴らしい）	17%	22%	36%	26%	34%	0%
4（良い）	51%	50%	55%	21%	37%	24%
3（ふつう）	22%	22%	10%	31%	21%	43%
2（やや不満）	7%	3%	0%	15%	8%	27%
1（不満）	0%	0%	0%	8%	0%	5%
平均	3.8	3.9	4.3	3.4	4.0	2.9

・セミナーに関する評価

専門的な知識を持つ講師によるセミナーに対する参加青年（日本・外国）の評価（5段階評価）は以下の通りであり、セミナーによって、内容に対する青年の評価に違いが見られる。

	リーダーシップ	異文化理解	プロジェクト・マネジメント
5（素晴らしい）	40%	49%	6%
4（良い）	46%	40%	26%
3（ふつう）	12%	9%	30%
2（やや不満）	1%	1%	23%
1（不満）	0%	0%	15%
平均	4.3	4.4	2.8

・平成 27 年度事業から拡大・導入されたプログラムに対する評価

平成 27 年度事業より事業全体の期間が延長されたことに伴い、時間を延長したサマリー・フォーラム（参加青年が事業中のコースディスカッションで得られた成果を発表するフォーラム。平成 24 年度事業から平成 26 年度事業までは午前のみ又は午後のみであったが、平成 27 年度事業においては、1 日をフォーラムの時間に充当した。）について、5 段階評価により、参加青年（日本・外国）の評価を得たところ、近年の事業における評価と比較して、高い評価が得られた。

－ サマリー・フォーラムの印象はどのようなものでしたか。

	27 年度	26 年度	25 年度	24 年度
5（素晴らしい）	39%	23%	21%	12%
4（良い）	45%	45%	37%	35%
5 と 4 の合計	85%	67%	58%	47%
平均	4.2	3.8	3.7	3.4

また、本年度より設定したアドバイザーセミナー（通常の 3 セミナーと別に、参加青年が自身の関心に基づき、リーダーシップ、プロジェクトマネジメント、異文化理解のセミナーのそれぞれのアドバイザーによる講義を受けることのできるセミナー）について、他の主要プログラムのうち、コースディスカッション、PY セミナー（参加青年（Participating Youth）による自主セミナー）に対する評価と比較すると、以下のとおり。

－ 各活動の印象はどのようなものでしたか。

	アドバイザー セミナー	コース ディスカッション	PY セミナー
5（素晴らしい）	25%	23%	24%
4（良い）	46%	40%	55%
5 と 4 の合計	71%	63%	79%
平均	3.8	3.7	4.0

【参加費免除の対象青年に対する評価】

①参加費免除の対象の参加青年の概要

平成 27 年度の事業より、経済的に困難な状況にある青年にも事業参加の機会を提供するため、国立大学の授業料の免除を受けている者や、内閣府において設けた家計基準を満たす者を対象に、参加費（28 万円程度）の免除枠を設けた。

なお、内閣府における家計基準は、国立大学の授業料免除の基準に準じ、世帯の収入、家庭の状況（母子・父子家庭であることや学齢期の家族がいること等）を勘案したものとしている。

属 性：学生 10 人^{※1}（うち地方出身者 6 人）（うち女性 4 人）^{※2}

^{※1} 選考試験合格者全体の中で、学生の割合は 87.2%、社会人の割合は 12.8%

^{※2} 選考試験合格者全体の中では、合格者 125 名中 61 名（49%）が地方出身者、90 名（72%）が女性。

免除理由：大学に在籍し、学費を全額免除されている者 1 人^{※3}

内閣府の定める家計基準を満たす者 9 人

^{※3} 免除対象者は国立大学に在籍しており、免除に当たっては家計基準が設けられている。

家庭環境：父子家庭または母子家庭である者 4 人

②参加費が免除された参加青年に対する評価

研修期間中、参加青年と身近に接することの多い、各コースのファシリテータから、事業実施後に、参加費が免除された青年に対する定性的な評価を得た。

・プログラムに対する姿勢

ファシリテータに対し、各青年のプログラムに対する姿勢について尋ねたところ、参加費が免除された青年 10 人のうち、9 人が、各ファシリテータより、他の青年と比較して、プログラムに積極的に取り組む姿勢がみられたとの評価を得た（他の青年と比較して劣るという評価を得た者はいなかった）。ファシリテータより得られた具体的な定性的評価の例は以下のとおり。

- プログラム中、積極的にディスカッションに関わり、また発言をしていた。スリランカ・インドの視察中には、事前に調べた情報を使って鋭いコメントや質問を行った。日本参加青年の中でも最も真剣に取り組んでいたひとりとして印象に残っている。
- 非常に積極的に、真面目にプログラムに取り組んでいた。アドバイザーセミナーで挙手して意見を述べたり、コース内でも何度も自分から意見を述べたりしてくれた。コースセッション後にファシリテータに内容について質問をすることが何度もあった。他に迎合せず、自分の信念のもと行動を起こしていけるすばらしい青年だと思った。

- コース運営委員の一員として大いに活躍した。責任感のある参加青年で、特に課題別視察やサマリー・フォーラムでは他のコース運営委員や発表者を取りまとめようとする積極的な姿が印象的だった。
- 特にサマリー・フォーラムではコースの日本参加青年を代表し、言語の壁を越えて全参加青年の前でコースの活動と学びを発表する積極的な姿、また外国人参加青年と積極的に交流する姿が印象的だった。

・ 他の事業参加者への影響

ファシリテータに対し、事業実施後に、各青年が他の事業参加者に良い影響を与えているかについて尋ねたところ、参加費が免除された青年10人のうち、7人が、各ファシリテータより、他の青年と比較して、他の事業参加者により良い影響を与えていたとの評価を得た（他の青年と比較して劣るという評価を得た者はいなかった）。ファシリテータより得られた具体的な定性的評価の例は以下のとおり。

- 英語力も平均以上で、他の参加青年への良い刺激になったと思う。
- 他の参加青年よりも他の参加青年に良い影響を大いに与えていた。（中略）レター・グループ内で大いにチームワークとリーダーシップを発揮していた。
- 課題への取組などはかなり頑張っていた。特に映像編集の技術を持っていたので、他の参加者を大いに助け、事後活動でも頑張り始めている。

・ プログラムの円滑な実施への貢献度

ファシリテータに対し、各青年がプログラムを円滑に実施する上で貢献しているかについて尋ねたところ、参加費が免除された青年10人のうち、6人が、各ファシリテータより、他の青年と比較して、他の事業参加者により良い影響を与えていたとの評価を得た（他の青年と比較して劣るという評価を得た者はいなかった）。ファシリテータより得られた具体的な定性的評価の例は以下のとおり。

- コースの授業中や課題別視察での積極的な意見交換、青年たちの取りまとめ、管理部の業務への協力等事業運営の円滑な実施に大いに役立った。
- コースディスカッション委員会ではなかったが、毎回椅子や机などの準備に協力してくれ、円滑にコースが進むための協力を惜しまなかった。

また、事業を通じて育成されることが期待される能力について、自身が6段階評価（「十分備えている」～「全く備えていない」）でどの位置にあるかを質問した結果は以下の通りとなった。調査10項目中、「異文化に対応する能力」、「主体性、積極性」、「自信」、「企画力」など、7項目について、参加費免除青年の方が、伸びが大きかった。（参加費免除対象青年10名中9名が調査に回答）。

	出航前研修時 (参加青年全体)	船上研修後 (参加青年全体)	伸び (参加青年全体)
コミュニケーション能力	3.89 (3.85)	4.67 (4.79)	0.78 (0.93)
リーダーシップ	3.22 (3.42)	4.33 (4.56)	1.11 (1.14)
問題解決能力	3.56 (3.81)	4.44 (4.59)	0.89 (0.78)
異文化に対応する能力	3.89 (4.23)	5.56 (5.36)	1.67 (1.13)
主体性・積極性	3.78 (3.91)	5.33 (4.92)	1.56 (1.02)
自信	4.11 (3.67)	5.44 (4.78)	1.33 (1.10)
企画力	3.33 (3.56)	4.78 (4.47)	1.44 (0.91)
積極的な発言	2.33 (3.26)	4.00 (4.22)	1.67 (0.96)
チャレンジ精神	4.67 (4.57)	5.56 (5.31)	0.89 (0.74)
計画性	3.44 (3.56)	4.11 (4.31)	0.67 (0.75)